

平成 31 年度石見銀山基金事業の選定結果について

平成 31 年 2 月 21 (土) に開催しました、石見銀山基金事業公開審査会により、平成 31 年度 4 月以降に実施する石見銀山基金事業について、候補事業 (要望事業) の公開プレゼンテーションと審査会を行いました。

今回、審査の対象となったのは、一般事業 2 団体・一般事業初挑戦枠の 1 団体から要望のあった 3 つの事業で審査の結果、3 事業が基準点数以上の評価を受け、石見銀山基金事業として選定されました。

以下、関連資料

- 石見銀山基金事業選定委員会委員名簿
- 一般事業・一般事業初挑戦枠リスト
- 一般事業・一般事業初挑戦枠 選定結果
- 選定基準

■石見銀山基金事業選定委員会委員名簿

(任期：平成28年 4月 1日～平成31年 3月31日)

氏名	職業・所属団体・役職	備考
渡 邊 一 正	NPO 市民文化財ネットワーク鳥取 理事長	委員長
久保田 典 男	島根県立大学 准教授	副委員長
高 須 佳 奈	島根大学 地域未来協創本部 地域人材育成マネジャー・講師	
梅 恒 雄	大田商工会議所 前専務理事	
池 淵 俊 一	島根県教育庁文化財課 調整監	
清 水 克 典	大田市 副市長	

※石見銀山基金事業公開審査会（平成31年2月23日開催）

（出席）渡邊委員、久保田委員、高須委員、梅委員、池淵委員、清水委員

■ 一般事業・一般事業初挑戦リスト

事業項目	申請団体名	事業名	事業概要・効果
	第2回町並み討論集会 実行委員会	大森・第2回 町並み討論集 会・追加会合	<p>平成30年11月に開催した第2回町並み討論集会の成果を基に安全・安心に関する部分については別の事業によって検討を加えている。</p> <p>いっぽう、第1回町並み討論集会や今回の討論集会分散会でも意見が出ていたように、大森の町並み保存地区は史跡と重複する部分もあり、また遺跡(史跡)と密接不可分なところに最大の特徴がある。</p> <p>よってこの2種類の文化財保護制度やそのもとで暮らし、関わりを持つ住民と外部からの参加者が町名も保存地区と史跡(遺跡)からなる世界遺産のこれらからについて、さらに議論を深めるため、討論集会のフォローアップ会合を開催する。</p> <p>内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 史跡の整備状況に関する現地調査 2) 問題提起：第2回町並み討論集会での課題について 3) 史跡指定50年の歩み：報告 4) 参加型パネルディスカッション <p>「史跡と町並み」がある世界遺産のこれから</p> <p>町並み保存地区であり、かつ史跡指定地区の銀山地区やその後背に広がる史跡(遺跡)からなる世界遺産のありようや今後について世界遺産や史跡の整備・住民との協働を知る専門家から情報を得、共有できる。</p> <p>この“共有”がさらに遺跡と町並みの両方から成り立つ世界遺産を持続可能にする学びや啓発に繋がる。</p> <p>【事業費 92,400円/補助金要望額 61,000円】</p>
一般事業	公益社団法人 石見大田 法人会	アニメで分か る石見銀山	<p>世界遺産石見銀山遺跡についてさまざまな切り口で取り上げ、学校や地域における銀山学習や観光客への紹介に利用できるアニメーションを制作する。あわせて、学校等へのDVDの配布と、webサイトでの公開を行う。将来的には、石見銀山協働会議と連携し、web教材としての展開を考えている。</p> <p>公益社団法人 石見大田法人会は、「税の啓発」を目的とする公益法人である。</p> <p>石見大田法人会では地域教育の教材として、石見銀山を紹介するアニメーションの制作事業に取り組んでいる。</p> <p>平成29年度には、石見銀山と税について分かりやすく紹介するアニメーション「税からみる石見銀山」(25分)の制作事業を実施した。制作したアニメーションを小学校の租税教室にて上映したところ、児童だけでなく教諭にも好評であった。また、同アニメは法人会内でも高い評価を受けた。子供にも大人にも好評であったことから、石見銀山に興味を持ってもらう入り口としてアニメーションでの紹介が有効であると分かった。</p> <p>そこで石見大田法人会では、地域貢献活動の一環として本年度より3年間、石見銀山を紹介するアニメーションの制作事業に取り組むこととした。</p> <p>3年間の事業を通して「石見銀山のなりたち」から「石見銀山が世界とどのようにつながっていったか」までを含めた「体系的な地域学習の教材」としてアニメーションを制作する。</p> <p>本事業で制作するアニメーションは、世界遺産教育の教材としての利用に加え、石見銀山の宣伝映像としても利用される予定である。</p> <p>アニメーション形式にすることで、生徒の興味を引き、学習への意欲を高める効果が期待できる。また、教育現場における世界遺産教育の教材不足を解消できる。結果として、世界遺産石見銀山について学びやすくなり、地域住民・地域の子供たちの石見銀山に対する理解が深まる。</p> <p>「江戸幕府の財政を支え、国際通貨として使われた石見銀山の銀」「自然と共生する循環型社会としての石見銀山」「石見銀山を支えた地元の偉人たち」といった石見銀山の素晴らしさを地域住民が知ることで、「郷土愛が深まる」「地元に残る若者が増える」といった効果も期待できる。</p> <p>また、石見銀山世界遺産センター・三瓶自然館などの公共観光施設と連携し、施設内での上映も計画している。施設に来館</p>

<p>一般事業 初挑戦枠</p>	<p>石見銀山を 学び、伝え る会</p>	<p>した観光客がアニメーションを見ることができ、石見銀山の魅力を短時間で理解できるようになる。理解が深まることで観光の満足度が向上し、ひいては観光地としての評判の向上、観光客の増加が期待できる。</p> <p>石見銀山の宣伝用映像としての用途では、ホームページやインターネットでの配信 (Youtube など) が考えられる。市内外・県内外の個人に向けて石見銀山をPRする映像コンテンツとして紙媒体よりも高い訴求力があり、話題性の向上、観光客の増加が期待される。</p> <p>【事業費 1,500,000 円／補助金要望額 1,000,000 円】</p> <p>石見銀山遺跡が国の史跡に指定されて 50 年、鉱山遺跡として国内初の史跡となった。鉱山に関する様々な遺跡は保護され世界遺産にも登録されて現在に至っている。</p> <p>いっぽう、鉱山としての機能や銀製錬の具体像については、発掘調査によって遺構・遺物は徐々に豊富になり、科学調査や文献調査もあいまいで明らかになりつつあるが、銀をどうやって作る (できる) のかについて、市民や現地を訪れる来訪者に十分な情報が届いていない。</p> <p>歴史上の製錬の再現は鉱石や製錬技術上の課題が大きく、「選鉱や灰吹精錬の原理」だけしか実見・体験し、学ぶことが出来ないので、まず製錬施設 (秋田県・小坂製錬) での現代の金銀銅製錬の実態を調査し、写真・動画で分かりやすく紹介を行う準備を進める。それを基に次年度以降、その情報を活用しながら自然科学・産業界も含めた観客点での実験授業への展開を目指す。</p> <p>具体的には、①秋田・小坂製錬所及び周辺の鉱業施設での現代製錬の現地調査を行い、写真など基礎資料を入手し、現代製錬の過程を市民に伝える。</p> <p>②次年度以降、その情報を動画にするなど関係企業の協力を得て、行政機関と共に動画などの公開につなげ、併せて銀山学習として、金銀銅製錬の原理を学ぶ出前授業の開催を目指す。</p> <p>小坂製錬の現地調査に関する親会社である DOWA ホールディングスの内諾は得ている。</p> <p>現在、石見銀山世界遺産センターでの銀製錬に関しては炉の展示と鉱石、貴鉛、銀の展示及び体験学習としての比重選鉱が出来るのみで灰吹き原理を示す簡易な炉で貴鉛状態の銀が溶ける工程のみである。</p> <p>これは実験に使う銀鉱石や貴鉛などの入手が困難なことに加え、有害物質である鉛を用いた実験になるからであり、「銀が出来る過程を現地か実験で体験・実感したい」という希望に添えていない。</p> <p>現代の製錬工場では、成分分析では灰吹き原理が引き続き用いられているが、いっぽう金銀銅の製造工程や規模は歴史上の製錬とはまったく異なる。</p> <p>製錬の現地は、様々な制約もあり誰もが見学できないので写真や動画、さらに化学式を理解した上での教室実験など学習を数歩進める一助とする。これは、文化財保護行政や世界遺産の維持というより市民による研究・学習活動が進展するというところである。</p> <p>【事業費 322,550 円／補助金要望額 300,000 円】</p>
----------------------	-------------------------------	---

※事業費／補助金要望額は、公開審査会時のものです。

■ 一般事業 選定結果

事業項目	申請団体	事業名	評価点		採否 採 択 ○ 不採 択 ×	備考
			平均点 (100 点満点)			
一般事業	第2回町並み討論集會実行委員会	大森・第2回町並み討論集會・追加会合	79.3		○	
	公益社団法人石見大田法人会	アニメで分かる石見銀山	72.7		○	

※ 平均点の6割(60点)以上の点数を獲得した団体の中から、獲得点数の高い順に選定(事業採択)

■ 一般事業 初挑戦枠 選定結果

事業項目	申請団体	事業名	評価点		採否 採 択 ○ 不採 択 ×	備考
			平均点 (100 点満点)			
一般事業 初挑戦枠	石見銀山を学び、伝える会	銀の作り方を学び、伝える	72.8		○	

※ 平均点の6割(60点)以上の点数を獲得した団体の中から、獲得点数の高い順に選定(事業採択)

■一般事業 選定基準

選定委員会は、次の評価項目について審査し、その総得点の6割以上の点数を獲得した団体から順次、獲得点数の高い順に選定事業に選定します。

(1) 評価項目及び評価の着眼点

評価項目	評価の着眼点
①継承性	I 地域共通の課題の存在を認識し解決を図る取組か。 II 未来の世代に良好な地域環境や地域社会をもたらす取組か。 III 目的を共有する誰もが参加できる組織による取組か。
②必要性	I 社会情勢に応じてニーズが高い事業か。 II 取り組む必要性が明確な事業か。
③社会的公益性、 地域貢献性	I 広く地域、社会に貢献する活動か。 II 広く公開された事業であるか。 III 応募団体の構成員や特定の個人、団体が対象となる利益事業ではないか。 IV 実施事業が団体で完結するのではなく、地域や住民との連携を伴うものであるか。 V 事業内容が地域課題の解決や活力の創出などに貢献する内容であるか。
④発展可能性	I 今後、その成果の広がりを期待できる活動か。 II 次世代の育成につながる活動か。 III 今後、継続して取り組める体制、計画か。 IV 自主財源の確保が可能か。
⑤実現可能性、 団体の事業遂行 能力	I 実施体制、事業計画（規模・内容）、資金計画（財源や用途）、スケジュールなど無理のない実現可能な活動か。 II 応募団体が企画及び事業遂行能力を持っているか。
⑥石見銀山らし さ	I 石見銀山の歴史、文化、自然、社会基盤などを活かす事業であるか。 II 石見銀山の新たな価値を見出し、地域への誇りを醸成する取り組みであるか。
⑦事業の新規性、 実効性	I この地域に新たに価値を付加する事業内容であるか。 II 新たな視点、発送、工夫やアイデアの企画、提案で独創性や創造性を感じられるか。 III 事業が具体的かつ実効性を持つものであるか。 IV 実施により想定される効果が期待できるか。 V 費用に対しての効果が認められるか。
⑧団体の広報力	応募団体が事業実施の際し、十分な事業告知を行い基金活用の趣旨を伝えるか。
⑨プレゼンテー ション	プレゼンテーションにおいて、的確かつ魅力的に事業を説明できたか。
⑩費用の妥当性	活動の内容に見合った経費見積もりとなっているか。

(2) 評価方法

(1) の評価項目毎に別に基準を設けて、11段階評価で行います。

(各選定委員の最高点：10項目×10点＝100点)

■一般事業 初挑戦枠 選定基準

選定委員会は、次の評価項目について審査し、総得点の6割以上の点数を獲得した団体から順次、獲得点数の高い順に選定事業に選定します。

(1) 評価項目及び評価の着眼点

評価項目	評価の着眼点	最高点
①公益性	I ニーズが高い事業か。 II 幅広く地域、社会に貢献する活動か。 III 個人や団体の利益事業ではないか。	30
②石見銀 山らしさ	I 石見銀山の歴史、文化、自然、社会基盤等を活かす事業か。 II 石見銀山の新たな価値を見出し、地域への誇りを醸成する取り組みか。	20
③事業の斬 新さ	I この地域に新たに価値を付加する事業内容か。 II 新たな視点、発想、工夫やアイデアの企画、提案で独創性や創造性を感じられるか。 III 事業が具体的かつ実効性を持つものか。 IV 実施により想定される効果が期待できるか。 V 費用に対しての効果が認められるか。	50

(2) 評価方法

(1) の評価項目毎に別に基準を設けて、評価で行います。

(各選定委員の最高点：100点(3項目))